

令和2年度 沖縄県の戦争遺跡展 パネル展

歩いていける 戦争遺跡

2020年8月12日(水)⇒9月13日(日)



日高名山市立記念塔



辺野原町の廃塀



糸満防空壕跡跡



沖縄陸軍飛行場跡 3号供給塔



座喜味の掩体壕跡



愛東園給水タンクの機械室



目次

ごあいさつ	1
戦争遺跡とは	2
沖縄戦以前の戦争遺跡	2
沖縄戦の戦争遺跡	3
1. 愛楽園の防空壕跡群	4
2. 旧億首橋	5
3. チビチリガマ	6
4. 旧読谷山村の忠魂碑	7
5. 座喜味の掩体壕跡	8
6. 旧天願橋	9
7. 美里尋常高等小学校の奉安殿・忠魂碑	10
8. 161.8高地陣地の戦闘指揮所・陣地壕跡群	11
9. 屋号・又吉のヒンブン	12
10. 嘉数高台公園の戦跡	13
11. 旧西原村役場壕	14
12. 弁ヶ嶽の通信所跡	15
13. 首里ハンタン山の通信所跡	16
14. 沖縄陸軍病院南風原壕	17
15. 旧海軍司令部壕	18
16. 糸数アブチラガマ	19
17. 沖縄陸軍病院山城本部壕跡	20
18. 沖縄陸軍病院伊原第3外科壕跡	21
19. 糸満防空監視哨跡	22
20. 摩文仁司令部壕跡	23
おわりに	24
今回取り扱った戦争遺跡	25

凡例

1. 本図版は、令和2年度企画展「沖縄県の戦争遺跡 -歩いて行ける戦争遺跡-」

(開催期間：令和2年8月12日～9月13日)の展示を補完するものとして、編集・作成しました。

2. 当誌に掲載した図、写真のうち断りがないものは、当センターで作成、撮影したものです。

ごあいさつ

アジア・太平洋戦争の中で激しい地上戦が繰り広げられた沖縄県には、現在も数多くの戦争遺跡が残されています。その保存・活用については、平和学習の観点から常に注目されてきました。

全国的にも、近代以降の戦争遺跡の注目は高く、広島県の「原爆ドーム」が平成7(1995)年に国の史跡となり、平成8(1996)年にはユネスコの世界文化遺産に登録されたことが契機となり、戦争遺跡を文化財として保存・活用する動きが高まっていきました。

沖縄県立埋蔵文化財センターでは、文化庁の補助を受けて平成22年度から26年度までの5か年にわたり、県内に所在する1,077カ所の戦争遺跡の内145遺跡について、詳細確認調査を実施しました。

その成果を踏まえて当センターでは、平成28年度から「沖縄県の戦争遺跡展」を開催しております。今年度の戦争遺跡展では、「歩いていける戦争遺跡」をテーマとし、身近な公園や比較的アクセスが容易な所にある戦争遺跡をパネル展示で紹介することで、県民に戦争遺跡を身近に感じてもらい、戦争遺跡の周知・活用を図り、戦争遺跡へ訪れるきっかけを提供したいと考えております。

多くの県民の皆様に本展をご覧いただき、戦争遺跡の重要性が広く認識され保存・活用が図られるとともに、平和について考える機会となれば幸いです。

令和2年8月12日

沖縄県立埋蔵文化財センター

所長 瑞慶覽 勝利

戦争遺跡とは

戦争遺跡とは、戦争や戦争の結果、その土地に残されたもので、軍事施設や避難・被災した場所、戦争に関連する様々な痕跡などが挙げられます。日本においては近代以降の戦争に伴う遺跡を対象として捉えられています。沖縄県では、沖縄戦に関連する戦争遺跡のほかに、沖縄戦より前の近代以降の戦争遺跡もあります。

沖縄県教育委員会による過去の調査では、1077 遺跡が確認されていますが、それ以前に失われたものや詳細に把握していないものも含めると、その数倍の戦争遺跡があると考えられます。沖縄戦の体験者が少なくなっている今、戦争遺跡は平和の大切さを学ぶ場として活用されています。

沖縄戦以前の戦争遺跡

明治 12（1879）年、明治政府が軍隊と警察官隊を派遣して琉球藩を廃止し、沖縄県を設置した、いわゆる琉球処分が行われました。明治 27（1894）年の日清戦争で日本が勝利し、台湾を領有すると、沖縄は軍事上重要な位置を占めることになり、様々な軍事施設が建てられました。また、日露戦争の後は、愛国心や戦意を高めるための施設が多く建てられました。沖縄戦以前の戦争遺跡は 89 遺跡が確認されています。主な遺跡の種類として軍に関わるものその他に、戦意高揚のための施設・記念碑などがあります。

沖縄戦の戦争遺跡

①沖縄戦の戦争遺跡とは

沖縄戦の戦争遺跡は、第 32 軍が創設された昭和 19（1944）年 3 月 22 日以降に構築または使用されたものから、米軍上陸以降に各地に造られた民間人収容所までを含みます。過去に沖縄県教育委員会で実施した調査では、988 遺跡が確認されています。主な遺跡の種類として、軍に関わるものその他に、病院壕、防空壕、役場壕、破壊・被災痕跡などがあります。

②沖縄戦の経過

沖縄戦は、米軍が慶良間諸島に上陸した昭和 20（1945）年 3 月 26 日から、米軍と降伏調印式を行った 9 月 7 日までと一般的に捉えられています。

昭和 20（1945）年 3 月下旬から、米軍は沖縄本島へ空襲・艦砲射撃を行い、3 月 26 日には慶良間諸島へ、4 月 1 日には本島中部西海岸へ上陸し、同月 3 日には本島を南北に分断しました。4 月上旬から 5 月にかけては日米の攻防が繰り広げられ、嘉数高地や前田高地をはじめ、宜野湾・浦添・西原・中城で激しい戦闘が行われました。しかし、浦添・西原が米軍に突破され、第 32 軍司令部のある首里へ迫ってきたことで、第 32 軍司令部は 5 月 27 日に糸満市摩文仁へ撤退しました。南部には多くの住民が避難していたため、軍民が混在する戦場となり、そのため多くの民間人が犠牲となりました。米軍は、徹底した掃討戦を行いながら南下し、6 月 21 日には司令部壕のある摩文仁へ達しました。追い詰められた第 32 軍司令官の牛島満と参謀長の長勇は摩文仁司令部壕内で自決し、沖縄の組織的戦闘が終結したとされています。しかし、戦闘継続の軍令を出していたために、残存部隊は戦闘を継続し、沖縄の降伏調印式が行われたのは 9 月 7 日となりました。

戦争遺跡の名称について

今回の企画展では、地域における名称や指定名称を遺跡名称としており、「沖縄県の戦争遺跡」（沖縄県立埋蔵文化財センター 2015）と異なっている場合があります。

1. 愛楽園の防空壕跡群

愛楽園の防空壕跡群（早田壕）は、昭和 19（1944）年に園長早田皓の命令の下、軽症の入園者によって構築されました。入園者はハンセン病による末梢神経障害で痛みを感じにくいくことから、壕の掘削作業の過程で負った傷の発見が遅れ、傷の悪化により指や足の切断を余儀なくされた者もいました。米軍の機銃掃射による死者は 1 名でしたが、壕生活での病気や栄養失調により 1945 年の一年間に 362 名が亡くなりました。また、コンクリート壁や給水タンクには当時の機銃痕が多く残っています。対岸の運天港には海軍の部隊が駐屯しており、規格的な建物が並ぶ愛楽園は、米軍に軍事施設と間違われたのではないかと考えられます。早田壕と給水タンクは、国立療養所沖縄愛楽園によって管理・公開されています。平成 27(2015) 年には、愛楽園の沖縄戦を含めた歴史を伝える資料館、交流会館が園内に開館しています。



左上：早田壕、右上：壕内（遺跡調査時撮影）、左下：給水タンクの機銃痕

所在地：名護市済井出

見学料：なし

国立療養所沖縄愛楽園内

駐車場：あり

遺跡の種類：防空壕、被災痕跡

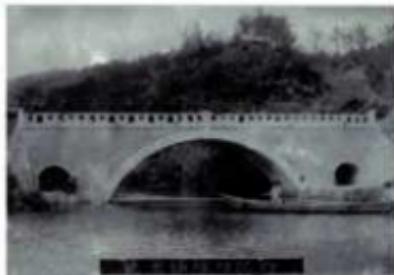
※令和 2 年 7 月現在、交流会館は見学可能ですが、

新型コロナウイルス感染症対策により園内の散策は禁止

2. 旧億首橋

旧億首橋は昭和6(1931)年に金武町億首川にかけられたコンクリート製のアーチ橋です。この場所は億首川流域で両岸が最も近いことから「ウククビ(奥首)」と呼ばれ、琉球王国時代に整備された宿道の時代から川を渡る場所でした。

沖縄戦時には、米軍上陸をおそれた日本軍によって破壊されたといわれ、橋の東側の一部が残存しています。金武ダム建設に伴い平成19(2007)年に金武町教育委員会による調査が行われ、宿道の遺構復元とともに公園整備されています。遺跡本体に近寄ることは出来ませんが、川の対岸のヤマクモー広場から見ることができます。



左上：旧億首橋、右上：破壊前の旧億首橋（金武町教育委員会提供）、左下：ヤマクモー広場

所在地：金武町字金武

見学料：なし

金武ダム、ヤマクモー広場

駐車場：ヤマクモー広場駐車場

遺跡の種類：破壊痕跡

3. チビチリガマ

チビチリガマは、読谷村字波平に位置する石灰岩の自然洞穴で、昭和 19（1944）年の 10・10 空襲以降、波平の住民により避難壕として利用されました。米軍が沖縄本島中部西海岸へ上陸を始めたことによって攻撃が激しくなるなか、この壕に避難していた住民 83 名が「集団自決」により亡くなりました。チビチリガマは、「集団自決」が起こった代表的な事例として知られ、平成 20（2008）年 2 月に読谷村指定文化財に指定されています。

現在、チビチリガマは平和学習に利用され、見学することが出来ますが、遺族会の意向によりガマ内部への立ち入りは禁止されています。



左上：チビチリガマ近景、右上：壕口、左下：ガマ遠景（入口付近）

所在地：読谷村字波平 1136-2 他

見学科：なし

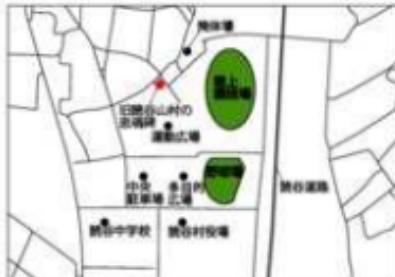
遺跡の種類：防空壕

駐車場：あり

4. 旧読谷山村の忠魂碑

忠魂碑とは、国のために忠義を尽くして戦死した兵士を祀った記念碑のことと、沖縄では日露戦争(1904～05年)後に多く建てられました。旧読谷山村の忠魂碑は、昭和10(1935)年に在郷軍人会読谷山分会によって、読谷山尋常高等小学校の敷地内に建てされました。この忠魂碑については沖縄県内で唯一文書資料が残っており、その資料から海軍大臣より4個の40口径通常弾が贈られたことが分かっています。このことから、忠魂碑の基壇には4個の40口径通常弾が飾られていたと考えられます。

旧読谷山村の忠魂碑は読谷村運動広場の一角に所在し、見学することができます。平成21(2009)年には読谷村指定文化財に指定され、平和学習の場として活用されています。



左上：旧読谷山村の忠魂碑、右上：忠魂碑碑身近景、左下：忠魂碑の背面

所在地：読谷村座喜味

見学料：なし

遺跡の種類：戦争に関連する施設・記念碑

駐車場：村民センター地区中央

駐車場

5. 座喜味の掩体壕跡

座喜味の掩体壕は、読谷村字座喜味に軍用機を格納する施設として築造されました。この掩体壕が位置する一帯では、昭和 18（1943）年に陸軍による飛行場建設が進められ、昭和 19（1944）年に複数の掩体壕が築造されました。戦後、複数の掩体壕が残存していましたが、現在はこの 1 基のみとなり、平成 21（2009）年 1 月に読谷村指定文化財に指定されました。現在は崩落防止のため壕内部は鉄骨等で保護され、入口はフェンスが張られています。内部の様子は、外から観察することができます。



左上：掩体壕表側（読谷村教育委員会提供）。右上：掩体壕裏側。左下：掩体壕内部

所在地：読谷村字座喜味

見学料：なし

2943、2948

駐車場：村民センター地区中央

遺跡の種類：掩体壕

駐車場

6. 旧天願橋

旧天願橋はうるま市天願川に架けられたコンクリート製の橋です。欄干が二つに分かれて曲線的な形態をしていることから「ターチ橋」となどと呼ばれていました。米軍の沖縄本島上陸直前に、米軍の侵攻を妨害するため、日本軍によって爆破されました。しかし完全な破壊には至らず、米軍は橋の上部に土をかぶせて使用したといわれています。

現在でも折れ曲がった状態で残っており、見学することができます。



左上：旧天願橋全貌。右上：近景、左下：旧天願橋入口付近

所在地：うるま市字天願

見学料：なし

遺跡の種類：破壊痕跡

駐車場：なし

7. 旧美里尋常高等小学校の奉安殿・忠魂碑

奉安殿・忠魂碑は、^{ひうあんでん} 旧美里尋常高等小学校敷地内に建設されました。奉安殿は、御真影（天皇・皇后の御写真）と教育勅語を保管するための施設です。国による皇民化教育・軍国主義教育のもと、職員は御真影を管理する義務があり、破損や盗難があると懲戒処分されました。忠魂碑は、天皇に忠義を尽くして戦死した兵士を祀る記念碑で、戦意高揚の場としても利用されました。

戦後、奉安殿の多くは破壊され、県内で残存する奉安殿は本例を含めて4カ所で、忠魂碑と共に現存しているのはここのみです。この奉安殿と忠魂碑は平成9（1997）年2月に沖縄市指定文化財に指定されました。現在は平和教育の場として活用されています。



左上：奉安殿、右上：奉安殿の銘痕、左下：忠魂碑

所在地：沖縄市知花6丁目34

遺跡の種類：奉安殿・忠魂碑

見学料：なし

駐車場：あり

せんとうし きしょ じんち ごうあとぐん 8. 161.8 高地陣地の戦闘指揮所・陣地壕跡群

161.8高地陣地の戦闘指揮所と陣地壕群は中城村北上原の丘陵にあり、昭和20(1945)年1月頃に日本軍と徴用された住民により構築されました。当時の標高計測値から161.8高地陣地と呼ばれています。この一帯は奥間集落発祥地の拝所「キシマコノ嶽」としても知られ、拝所である大岩の上にコンクリートと石灰岩によって岩のように仕上げられた戦闘指揮所、大岩の根元には自然洞穴を利用した陣地壕があり、壕内部には銃眼やトンネルなどが設けられています。また、大岩から南側に離れた場所に塹壕が確認されています。平成26(2014)年3月に中城村指定文化財に指定されました。歴史の道「ハンタ道」として整備された遊歩道沿いにあり、「キシマコノ嶽」とともに見学できますが、指揮所と壕内の立ち入りは禁止されています。



左：戦闘指揮所と陣地壕（中城村教育委員会提供）、右：大岩と陣地壕

所在地：中城村字北上原

見学科：なし

中城ハンタ道沿い

駐車場：なし

遺跡の種類：戦闘指揮所・陣地壕・塹壕

や ご う マテーシ 9. 屋号・又吉のヒンブン

中城村伊集の屋敷（屋号・又吉）にあったヒンブンで、護佐丸歴史資料図書館の敷地内に移設されています。ヒンブンとは、沖縄の屋敷にみられる門の内側にある目隠しです。このヒンブンは琉球石灰岩の切り石を積み上げて構築されたもので、両面には沖縄戦時の銃痕が残っています。

このヒンブンがあった伊集の集落は、周辺には日本軍の陣地があったために激しい戦闘があったとされ、ヒンブンに残された無数の銃痕からは当時の状況を窺えます。護佐丸歴史資料図書館の敷地内的一角にあり、見学することができます。



左上：屋号・又吉のヒンブン。右上：ヒンブン正面。左下：銃痕

所在地：中城村字安里 215

見学科：なし

護佐丸歴史資料図書館敷地内

駐車場：護佐丸歴史資料図書館の

遺跡の種類：被災痕跡

駐車場

かかず 10. 嘉数高台公園の戦跡

嘉数高台は「嘉数高地」とも呼ばれ、沖縄戦における米軍と日本軍との大規模な戦闘が行われた激戦地の一つとして知られています。嘉数高台公園には、当時の日本軍が構築したトーチカや陣地壕が残っています。トーチカは丘陵部の頂上付近にあり、鉄筋コンクリート製で北側に銃眼が二か所設けられています。トーチカには銃弾痕が無数にあるとともに、北側は鉄筋がむき出しになるほど損傷しており激しい戦闘があったことが窺えます。陣地壕は、南側斜面に現存していますが、立ち入りは制限されています。

嘉数高台公園内には、これらの遺構とともに、戦後に建立された慰霊碑や銃弾痕の残る民家の塀が保存され平和教育の場として利用されています。



左上：トーチカ、右上：トーチカ北側、左下：陣地壕

所在地：宜野湾市字嘉数

嘉数高台公園内

遺跡の性格：トーチカ、陣地壕、被災痕跡

見学料：なし

駐車場：公園内駐車場

11. 旧西原村役場壕

太平洋戦争末期、県庁や市町村役場では重要書類を保管する壕構築が本格的に進められました。旧西原村役場壕は、昭和 19（1944）年 6 月頃に重要書類を保管するために、当時の役場（現：西原町学校給食共同調理場）の西側に近接して構築されました。役場事務は、米軍の沖縄本島上陸直前まで行われ、毎朝出勤時に役場壕から書類を持ち出して事務を行い、夕方再び書類を壕内に運んで保管したとされています。戦後はそのまま放置され、民間工事により壕の南側の壁が壊され大きく開口していますが、本来の壕口は北東側に向かって 2 か所あります。

平成 26（2014）年 3 月に西原町指定文化財に指定されています。南側の開口部や壕入口 2 か所に柵が設けられ、内部の立ち入りはできませんが、外側から見学することができます。



左上：旧西原村役場壕（南側開口部）。右上：南側開口部と壕口周辺。左下：内部（南側開口部より撮影）

所在地：西原町字船長 319-4 番地・

見学料：なし

320 番地

駐車場：西原の塔駐車場

遺跡の種類：役場壕

12. 弁ヶ嶽の通信所跡

弁ヶ嶽の通信所跡は、首里・弁ヶ岳の中腹にある拝殿の西側、標高約150mの地点にあるコンクリート製構築物です。

これまでトーチカ（鉄筋コンクリート製の堅固な陣地）と呼ばれていましたが、窓の形や大きさから銃眼ではなく建物の窓と考えられ、残された史料にも弁ヶ嶽に通信所が構築されたとあり、以上のことから通信所跡と考えられます。

現在は弁ヶ岳公園内にあり、外観を見学することができます。内部への立ち入りは危険なのでおやめください。



左上：弁ヶ嶽の通信所跡、右上：通信所跡の窓、左下：内部の天井（平成25年調査時）

所在地：那覇市首里烏城町4丁目

遺跡の種類：通信所

弁ヶ岳公園（国史跡「弁之御嶽」）

見学科：なし

内に所在

駐車場：なし

13. 首里ハンタン山の通信所跡

首里ハンタン山の通信所跡は、首里城公園内の龍淵橋から首里城の歓会門に向かう途中の左手に所在します。第32軍司令部に関連するものだと考えられ、通路を挟んだ反対側には、第32軍司令部壕に関する説明板が設置されています。トーチカと呼ばれることもありましたが、明確な銃眼が見られず、見通しが良くない場所に立地することから、通信所跡と考えています。また、厚さ2mの強固なコンクリートで造られています。

内部は柵が設置され立ち入ることはできませんが、外側から内部の様子を見学することができます。



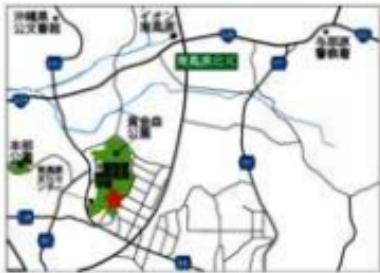
所在地：那覇市首里、首里城公園内
遺跡の種類：通信所

見学料：なし
駐車場：首里城公園駐車場（有料）

14. 沖縄陸軍病院南風原壕

第32軍直属の陸軍病院として人工的に構築された壕群で、第1外科壕、第2外科壕、第3外科壕があり、そのうち第1外科壕と第2外科壕が黄金森公園内に所在しています。1945年3月23日、米軍による沖縄本島上陸に向けた空襲が始まると、それまで病院として使用した南風原国民学校から黄金森一帯に掘られた壕群へ移動しました。その後、沖縄本島南部に撤退するまでの約2か月間、暗い壕内で活動を行いました。

本遺跡は現在、南風原町指定文化財に指定されています。そのうち20号壕は考古学的な調査や整備工事が行われ、一般公開されています。また、公園内では黄金森の病院壕へ食料運搬を行った飯上げの道などの戦争遺跡が残されています。黄金森公園に隣接する南風原文化センターでは、病院壕内部の再現展示や体験者の証言を展示するとともに南風原町内の戦争遺跡について紹介しています。



左上：20号壕の入口、右上：飯上げの道、左下：南風原文化センター

所在地：南風原町喜屋武

見学科：20号壕、南風原文化センターは有料

黄金森公園内

駐車場：黄金森公園駐車場

遺跡の種類：病院壕

※臨時休館している場合があるため、見学をご希望される場合は

南風原文化センターにお問い合わせください。

15. 旧海軍司令部壕

旧海軍司令部壕は、豊見城市の海軍壕公園内に所在します。

この壕は最高機密であったため、構築は海軍の設営隊のみで行われ、民間人が徴用されることはありませんでした。昭和 20（1945）年 6 月 4 日に米軍が小禄飛行場（現在の那覇空港）の北部から上陸し交戦状態となり、米軍に包囲された海軍司令部の大田 實^{みのる}司令官は、海軍次官あてに「沖縄県民かく戦えり」の電文を打ち、同年 6 月 13 日に司令部壕内で自決しました。

壕内は一部が改修、補強され一般公開されています。壕の総延長は約 450 m あったとされますが、現状で公開されている範囲は 300 m です。また、旧日本海軍についての展示を行っている資料館や、慰靈塔もあり、海軍壕公園は平和について考えることのできる公園となっています。



左上：資料館、右上：旧海軍司令部壕壕内、左下：慰靈塔

(写真3枚は旧海軍司令部壕事業所提供)

所在地：豊見城市字豊見城

海軍壕公園内

遺跡の種類：司令部壕

見学料：有料

駐車場：海軍壕公園駐車場

いとかず 16. 糸数アブチラガマ

糸数アブチラガマは全長 270 m の自然洞穴で、地上戦開始前には日本軍が陣地として使用していました。昭和 20 (1945) 年 3 月 24 日には住民も避難してきました。地上戦が始まると沖縄陸軍病院の糸数分室として使用されますが、5 月 25 日に南部への撤退命令が出されると、病院関係者や歩ける患者は糸満市伊原の第 1 外科壕へ移動しました。8 月下旬頃、米軍の呼びかけに応えて多くの住民が壕を出ましたが、最後まで立てこもった日本軍兵士 1 人と住民 2 人が投降したのは 9 月中旬頃でした。

現在は糸数アブチラガマ案内センターによって壕の見学受付や案内などが行われ、平和学習の場として活用されています。



左上：壕内部①、右上：壕内部②、左下：糸数アブチラガマ案内板 (上 2 枚は南城市役所提供)

所在地：南城市玉城字糸数

見学料：有料

遺跡の種類：病院壕

駐車場：糸数アブチラガマ案内センター

17. 沖縄陸軍病院山城本部壕跡

ひめゆり平和祈念資料館の約1km南に位置する自然洞穴の壕で、地元ではサキアブと呼ばれていました。当初は地元の住民が避難していましたが、陸軍病院南風原壕が南部へ撤退した際に、病院本部が置かれました。壕口は縱方向に開き、壕内部へはスロープ状の坂道から進入していたようです。沖縄陸軍病院山城本部壕は、伝令や命令受領者を通じて分散した各外科を統率していましたが、昭和20（1945）年6月中旬頃の壕入口付近の直撃弾によって、廣池病院長をはじめ多数の戦死者、戦傷者を出し、それによって沖縄陸軍病院は解散しました。

現在、壕周辺は平坦に整地され、平和学習として訪れる見学者もいます。敷地内の広場には、「沖縄陸軍病院之塔」や歌碑、説明板、ベンチなどが設置されています。



左上：壕の入口、右上：壕内部、左下：壕入口遠景

所在地：糸満市字山城

遺跡の種類：病院壕

見学料：なし

駐車場：なし

いはら 18. 沖縄陸軍病院伊原第3外科壕跡

伊原第3外科壕跡は、沖縄陸軍病院南風原壕の第3外科などから勤務者が移動してきた壕で、鍾乳洞の天井部分が落盤してくぼんだ自然洞穴となっています。現在はひめゆりの塔の前に所在しています。

昭和20（1945）年6月18日に学徒隊に解散命令が出されましたが、翌朝にガス弾（黄リン弾）が投げ込まれ、病院関係者やひめゆり学徒隊、引率教員、住民など壕内に避難していたおよそ81人が犠牲となりました。

壕内に立ち入ることは出来ませんが、ひめゆり平和祈念資料館の展示では第3外科壕内が再現されています。また、ひめゆり学徒隊が歩んだ沖縄戦をたどることができるとともに、平和について考える構成となっています。



左上：壕の入口、右上：ひめゆり平和祈念資料館、左下：ひめゆりの塔入口

所在地：糸満市字伊原

見学料：なし（資料館は有料）

ひめゆりの塔敷地内

駐車場：お土産品店駐車場

遺跡の種類：病院壕

いとまんぼうくうかんし しょう 19. 糸満防空監視哨跡

糸満防空監視哨は、**山巒毛**と呼ばれる標高約 20 mの丘陵の頂上にあります。

この防空監視哨は昭和 16（1941）年～昭和 18（1943）年頃に造られました。また、北東側にあった糸満警察署との間には直通電話が通じていたといわれています。糸満防空監視哨は、建物本体は残っておらず、コンクリート製の床面のみが残っています。平面形は 8 角形で、8 方位に窓があったとされています。

現在は山巒毛公園内にあり見学が可能です。防空監視哨の他に、砲弾痕が残る「御大典記念山巒毛改修碑」と国旗掲揚台などの戦争遺跡も残されています。



左上：糸満防空監視哨跡。右上：山巒毛改修碑の台座に残る砲弾痕。左下：山巒毛からの景色

所在地：糸満市字糸満

山巒毛公園内

遺跡の種類：防空監視哨

見学料：なし

駐車場：公園内駐車場

20. 摩文仁司令部壕跡

摩文仁司令部壕は、第32軍司令部が首里から撤退し、最終的な拠点とした壕です。琉球石灰岩の自然洞穴を加工した壕で、総延長は約100mです。また、開口部は3か所確認できています。第32軍司令部は、米軍の前線が首里に迫った昭和20(1945)年5月27日に南部に撤退し、5月29日に摩文仁司令部壕へ到着しました。南部へ撤退後も徐々に日本軍は追い込まれ、6月23日(諸説あり)に第32軍司令官の牛島満は摩文仁司令部壕の開口部付近で自決しました。この日に沖縄戦の組織的戦闘が終了したとされ、6月23日は沖縄県の条例で「慰靈の日」と定められ、休日となっています。

現在は沖縄県営平和祈念公園内にあり、黎明の塔から壕口付近まで遊歩道が整備され、壕入口が見学できます。



左上：壕の入口遠景、右上：壕の入口、右下：壕入口付近からの景色

所在地：糸満市摩文仁

見学料：なし

沖縄県平和祈念公園内

駐車場：公園内駐車場

遺跡の種類：司令部壕

おわりに

当センターでは、これまでの調査で判明した戦争遺跡を活用するために、平成27（2015）年度から企画展『沖縄県の戦争遺跡』を開催し、今回で6回目を迎えます。

沖縄戦を経験した本県において戦争体験者が減少するなかで、戦争遺跡は沖縄戦を語る上で欠くことのできないものであり、平和について学び考えるための重要な場として活用されています。

沖縄県内には多くの戦争遺跡が残されていますが、なかには危険な場所に所在する戦争遺跡や、個人の所有地として一般公開されていない戦争遺跡もあります。また、戦争遺跡が身近にたくさんあるにも関わらず、付近に生活する方々も知らなかったという声も聞かれます。そこで今回の戦争遺跡展では、「歩いていける戦争遺跡」というテーマで、公園や比較的アクセスが容易な所にある戦争遺跡を紹介し、県民の皆様に戦争遺跡を身近に感じてもらおうと考え、企画しました。

最後にご協力いただいた関係者の皆さんに感謝を申し上げ、今後とも当センターではこのような戦争遺跡を活用するために企画に取り組んでいければと考えております。

【参考文献および戦争遺跡を学ぶための文献】

大田昌秀編著 1982『總史 沖縄戦』岩波書店

沖縄県教育庁文化財課資料叢書2017『沖縄県史各論編6 沖縄戦』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2015『沖縄県の戦争遺跡－平成22～26年度戦争遺跡詳細確認調査報告書－』

沖縄県立埋蔵文化財センター 2002『沖縄県戦争遺跡詳細分布調査（IV）一本島西辺離島及び那覇市編－』

金武町教育委員会 2011『健首の交通遺跡群 健首川流域古墓群比嘉原地区 幸地原の焼焼窓跡』

－健首ダム建設事業（本体工事域）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』

中城村教育委員会 2020『中城村の戦争遺跡－沖縄戦の記憶と痕跡を歩く－』

吉浜忍 2017『沖縄の戦争遺跡〈記憶〉を未来につなげる』吉川弘文館

吉浜忍・林博文・吉川由紀編 2019『沖縄戦を知る辞典 非体験世代が語り継ぐ』吉川弘文館

吉浜忍・大城和喜・池田栄史・上地克俊・古賀徳子 2010『沖縄陸軍病院南風原壕』高文研

今回取り扱った戦争遺跡



1	愛米園の焼芝塙跡群
2	田代首橋
3	チビチリガマ
4	田説谷山村の忠魂碑
5	佐喜味の施体塙跡
6	田天顛情
7	相模原尋常高等小学校の奉安殿・忠魂碑
8	161.8高地陣地の戦闘指揮所・陣地塙跡群
9	屋等・父寄のヒンブン
10	高教島谷公園の戦跡
11	田西原村役場塙
12	井ヶ塙の通信所跡
13	音鹿ハンタン山の通信所跡
14	沖縄陸軍病院海風原塙
15	旧海軍司令部塙
16	糸敷アブチラガマ
17	沖縄陸軍病院山城本部塙跡
18	沖縄陸軍病院伊良第3外科塙跡
19	魚浦防空監視哨跡
20	摩大仁司令部塙跡

令和2年度 沖縄県の戦争遺跡展
「歩いていける戦争遺跡」

発行日 令和2（2020）年8月12日

編集・発行 沖縄県立埋蔵文化財センター

〒903-0125 沖縄県中頭郡西原町字上原 193-7

TEL：098-835-8751 FAX：098-835-8754

【休所日】月曜日、祝日（その他臨時休所あり）

【開所時間】9：00～17：00（入所は16：30まで）

【入所・観覧料】無料